



## 映画「大コメ騒動」ができるまで 映画監督 本木 克英様

紹介者 笠原 健太郎

4年前までは松竹で社員映画監督をしておりました。映画18作目が「大コメ騒動」です。ドラマもたくさん撮っており、Amazonプライムで今でも観ることができる川口春奈さん主演の、「しろときいろ」というハワイにあるパンケーキショップ「エッグスン・シングス」を成功させた二代目女性社長を題材にした連続ドラマで、この写真は撮影準備のためにハワイに行った時に笠原さんと一緒に撮った写真です。

### 大コメ騒動 予告編上映

「1月8日、映画館で笑い初め」と行きたかったのですが、1月8日、緊急事態宣言発令と同時に公開になり、資金の回収には至っておりません。10月にDVDが出ますのでご覧いただきたいと思います。笠原さんはこの映画の製作委員会に参加されました。製作委員会とは、つまりこの映画にご出資頂いたということです。最近の商業映画は全て製作委員会方式で作られています。

### 超高速！参勤交代 予告編上映

7年ぐらい前の「超高速！参勤交代」も製作委員会方式で松竹以外も出資して頂いております。映画は出資したら劇場で公開し、資金を回収しなければなりません。日本映画で最も強いのはアニメ作品です。実写と比べたら桁違いに強いです。その中で珍しくこの映画は大ヒットしました。この映画は松竹単独の出資は難しい状況でした。それはなぜかという、原作がなくオリジナル脚本であること、時代劇はお金がかかること、時代劇のコメディが当たったことがあまりないと前例のないことばかり揃ったため反対が多かったのです。しかし、なんとか苦労しながらも作った作品です。

### 空飛ぶタイヤ 予告編上映

これが笠原さんと本格的に交流するきっかけになった作品で、長瀬智也さんが主演の映画「空飛ぶタイヤ」です。池井戸潤さんの小説が原作で、テレビドラマでは描ききれない映画ならではの作品です。フィクションですが観た人が実際にあった事件ではないか、大企業の隠蔽をモデルにしているのではないかと想像し、クレームがあることが予想され、テレビドラマでは難しいだろうということです。この作品の何が大変かと言うと、事故シーンから始まりますが、車やタイヤのメーカーを特定されてはいけません。タイヤの溝1本でもメーカーが想定されてしまうため、CGで加工、修正に時間がかかりました。この映画も製作委員会方式で作られ、これも幸いにもヒットしました。

この業界に入ったきっかけは1987年、早稲田大学卒業、ある金融機関に内定していましたが、松竹が17年ぶりに助監督を募集していることを知り、こっそり応募し採用が決まりました。10年間、プロデューサー、助監督を経験し、監督デビュー作から3本目で釣りバカ日誌を撮っております。

### 釣りバカ日誌13 予告編上映

富山県を舞台に撮影されたものでしたが、富山県だけで全国興収の2割を上げる驚異的なヒットでした。富山県は人口約110万人ですが、約10億円のうちの2億円を富山県が上げたのです。これにはいろんな理由がありますが、富山県が舞台になることはあまりなかったということと、富山県のイメージは

暗い日本海の、寒い、垂れ込めた雲から雪がしんと降り、殺人、心中、不倫の果ての悲劇。そんなイメージの富山が喜劇の舞台になり、大変盛り上がりました。そして、その後は映画界が富山に注目し、大きな映画のロケ地として使われるようになりました。例えば「剣岳」や全く富山が舞台ではないものでもロケ地として使うようになりました。

### 初監督作 てなもんや商社 予告編上映

1998年に公開された映画です。懇親のデビュー作です。あらすじは、美大に7年在学していた女性が、面接22社目でやっと入社した会社が日中貿易の中小商社。腰掛のつもりでしたが、華僑の上司に徹底的に仕事を叩き込まれて仕事に目覚めていく成長物語です。渡辺謙さんが華僑役でした。今ではとてもお願いできません。製作費が吹っ飛びぐらいの出演料になってしまいますから、2週間で撮った映画ですが、いろんな苦労があった映画です。松竹の上層部に観せたところ、「全く面白くない。」とお蔵入りの危機を救ってくれたのが岩波ホールの故高野悦子さんでした。

高野さんのお父様の実家が富山県黒部市にあり、そのつながりで富山映画サークルの方が「てなもんや商社」のビデオを高野さんに送って、「観て下さい。」とお願いしていただきました。ビデオを観た高野さんから、「これからの映画監督は撮るだけではだめ、観せるための努力をしないと。」と助言があり、人脈を紹介して頂き、富山県人会の懇親会を回り、上映会を企画しその収入を松竹に入れてやっと公開に至り、監督として生き残ることができました。お蔵入りになると監督生命にも関わります。高野悦子さんは恩人です。

### 大コメ騒動

10年前ぐらい前から富山を舞台にした次の映画の依頼がありました。私のデビュー作を応援してくださいました高野さんは、「富山の女性は強く、米騒動は、お上と戦った最初の女性運動で、富山の映画を作るなら米騒動にきなさい。」と勧めて下さいました。ところが、大コメ騒動の情報がマスコミに流れると、匿名の電話がかかってきて、「富山の恥だ！米騒動はお上に楯突いた暴動だ！」と。しかし、賛否両論ある史実の方が映画にすると面白いのです。なんとか企画化しようと思い、まずは主演の井上真央さんに承諾を頂き、プロデューサーの岩城さんが動き、映画が動きました。しかし、資金集めが大変でした。出資の一部を笠原さんがいち早く出して下さり、きっかけを作って下さいました。新型コロナのため思うような興行ではありませんでしたが、これからの時代は映画館だけではなく、配信など二次利用で投資を回収する方法があります。この映画に関しては監督として責任を持ってやっていきます。

今後は9月初旬を目標に、新作の映画のクランクインを目指します。1年前に撮影に入ろうとして延期になった作品です。これだけの感染者数で突然何が起るかわからない時代ですが、何とか撮り終えて完成した暁には、是非楽しんでみて頂ければ幸いです。